

第6回 食品産業もったいない大賞

農林水産省 食料産業局長賞受賞

野菜未利用部サイレージによる三方よしの取り組み



株式会社グリーンメッセージ/キューピー株式会社

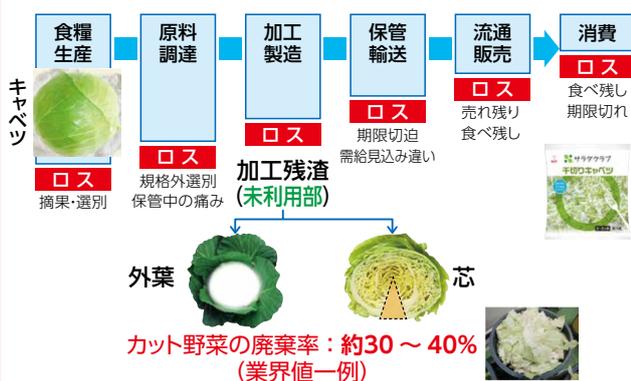
業務用向けカット野菜を製造・販売しているキューピーグループの株式会社グリーンメッセージでは、毎日膨大な量の端材(キャベツの芯や外葉など)が発生し、産業廃棄物として処理していた。キューピーグループではこの端材を「野菜未利用部」と呼び、乳牛用飼料への有効利用をめざして研究を進めてきた。

野菜未利用部を分別収集し、粉碎および脱水した後、フレキシブルコンテナバックの中で乳酸発酵を促し、動物由来たんぱく質が混入していない安全、安心で長期保管が可能な形態へのサイレージ化に成功。従来の飼料に、この発酵飼料を1割程度混ぜ合わせた飼料を乳牛に与えるとその摂取量が大きく増加し乳質を維持したまま乳量を増加させる酪農家のニーズに耳を傾けた有用性の高い飼料であるというデータが得られた。そして、飼料製造のスケールアップを図り、いよいよ大規模酪農家への提供が開始された。

この取り組みは、酪農家にとっては「安価・安定な飼料」が提供され、環境・会社にとっては「廃棄物の削減」となり、国・政府にとっては飼料自給率のupに繋がるという三方よしの取り組みとなった。

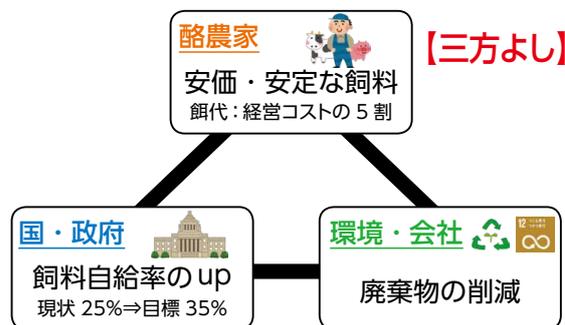
今後は、グリーンメッセージ以外のカット野菜を取り扱う全国のグループ会社での展開を予定している。

私たちの取り組み 事例(キャベツ)



エコフィードのメリット

未利用部を活用した飼料...エコフィード



今回の取り組みについてキューピー株式会社CSR部 社会・環境チーム チームリーダー 竹内 直基様、研究開発本部 野菜価値創造部 倉田 幸治様および株式会社グリーンメッセージ 開発課 課長 藤村 亮太郎様にお話を伺いました。

Q 今回の取り組みのきっかけをお聞かせください。

A 野菜の端材については有効活用できないかと以前から考えていました。そんなおり、グリーンメッセージの新工場を立ち上げることになりましたので、これを機会と捉えて乳牛用飼料への有効利用の研究を本格化させました。



▲竹内 直基 様

Q 飼料化は新たな取り組みということで特にご苦労された点をお聞かせ下さい

A 端材はこれまで産廃業者に委託して肥料用としては有効活用できていたのですが、より付加価値を高める為に飼料用として開発をしました。ただ初めての試みでしたので、販売先の開拓からのスタートでした。安全性について科学的根拠は取れていたのですが、それでも不安に思う酪農家の方が多くいらっしゃいました。東京農工大学の佐藤教授と共同研究し、より厳格な再確認を行なうなど、様々な取り組みを進めていく中で取引先様を増やすことができました。



▲倉田 幸治 様

Q 今後の展開が大きく期待されますね

A 社会にどう還元できるかが大きなテーマです。同様の取り組みをグループへさらに広げていくつもりです。まずはある程度の数量が見込める規模の大きい拠点からになりますが、その後より多くの拠点に展開できればと考えています。



▲藤村 亮太郎 様